

I. 平成20年度活動報告

現在の農業のおかれている状況が厳しいのは、分かりきった事実である。しかし、実態のつかめない問題ゆえに、ただ萎縮してしまい、物事を悲観的に考えてしまう傾向が強くなっている。我々には、青年農業者として農業界へ斬新かつ爽快な風を吹かせる義務があり、また、その力を持っていることを忘れてはならない。

今年度の全国農業青年クラブ連絡協議会は、「販路拡大と地位向上」を目指し、異業種企業との連携を積極的に推進することで、状況を客観的に捉える「目と耳」、戦略を練り実行する「頭と力」を手に入れるべく活動する。

あわせて、一般者（消費者等）も含めた上で事業を企画し、交流と情報発信の場を作りたいと考える。

また、全ての活動は、クラブ員の経営に少しでも役に立つことが前提であり、こうした全体の活動を通じて、組織価値を高めていこうと考える。

以上を踏まえ、平成20年度全国農業青年クラブ連絡協議会の活動は以下の重点目標をあげ、事業を展開した。

(1) クラブ員の資質向上と組織活動の活性化

組織活動の意義と目的を明確にし、目的達成に向けた有効な活動を行うために、クラブ員相互の意見・情報交換を通じて青年農業者としての資質の向上と、活発な組織活動を目指した。

(2) 異業種の企業・団体との積極的連携と新規事業の展開

農業の現在おかれている状況を見つめ直し、状況打開のため、異業種と積極的に意見交換や連携をはかり、新規事業を展開し、組織価値の向上を目指した。

(3) 関係機関、団体との連携強化

農林水産省やその他の農業関係機関、団体との意志疎通を図ることにより、活動の更なる活性化を目指した。

全国農業青年クラブ中央推進会議

(1) ねらい

この会議は、4Hの理念に基づく農業青年クラブ活動を積極的に展開し、農業青年の資質向上と組織の充実強化を図ることをねらいとして開催した。

食への様々な不安が募る今、農業への関心が近年になく高まっている…。ただ、それは我々生産者支援ではない。安心・安全・美味しい農産物の需要が高まっただけである。我々は勘違いしてはならない。自己満足な農業生産をするのではなく、誰を幸せにしたいのかを明確にし、そのために農業経営できているのか、今一度このタイミングで見つめ直さなければ時代の波に乗り遅れ、ただの「KY農家」となってしまう。

本会議は消費者から我々農業青年に何が求められているのかを敏感に感じる感性と農産物を商品として流通させるスキルを学び、消費者を「農業」で幸せにする農業青年をめざすため開催した。

(2) 主 催

全国農業青年クラブ連絡協議会

(3) 後 援

全国農村青少年教育振興会

(4) 開催期日

平成20年7月18日（金）～19日（土） 1泊2日

(5) 開催場所

国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

(6) 参加者

農業青年クラブリーダー等 38名

道府県担当者等 4名

関係者等 24名

合 計 66名

(7) 会議内容

①講演「作る人 食べる人 つなぐ私たち」

オイシックス株式会社取締役 古府 裕雅 氏

②実践的ワークショップ

7班に分かれ、伝統野菜「リバベジ」の商品企画を行い、オイシックス株式会社・一般消費者へプレゼンテーションを行った。

③オイシックス株式会社と情報・意見交換

第48回全国青年農業者会議

(1) ねらい

この会議は、日本農業の担い手として、農業や農村生活環境の改善等を実践している若者たちが、体験した成果をお互いに発表しあい、当面する問題の解決方法や発展方向を見出だすと共に、農業を取り巻く諸問題を討議して、新しい農業及び農村の建設に資することをねらいとして開催した。

(2) 主 催

全国農業青年クラブ連絡協議会、社団法人全国農村青少年教育振興会

(3) 後 援

農林水産省、全国指導農業士連絡協議会、社団法人全国農業改良普及支援協会

(4) 開催期日

平成21年3月10日（火）～12日（木） 2泊3日

(5) 開催場所

国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

(6) 参加者

青年農業者、青少年担当普及指導員、都道府県青少年担当者等	336名
関係者等	52名
合 計	388名

(7) 会議の共通課題

「CHEMISTRY～農業青年（わたしたち）ができること～」

(8) 会議内容

① 記念講演

「明日の世界を担う農業青年へ」

AGCグリーンテック（株）取締役 安井 一郎 氏

「夢を持った者が勝ち」

（有）木村農園代表 木村 慎一 氏

② プロジェクト発表

各ブロックの代表者によるプロジェクト発表を行った。

③ 農業青年の意見発表

各ブロックの代表者による意見発表を行った。

④ 優秀農業青年クラブ活動事例発表

平成20年度優秀農業青年クラブ表彰で大臣賞を受賞したクラブの活動事例発表を行った。

⑤ 分科会討議

クラブ員が作目ごとに分かれ、その班で起業するとしたら何ができるか、何をすべきか、KJ法を使って討議し、事業計画書の作成を行った。

⑥ 交流の夕

クラブ員同士の交流と親睦を深め、友情の輪を広めた。

⑦ 全体討議

農業にかかわらず若者が起こすCHEMISTRYをテーマに、宮治氏、藤田氏、荻原がモデルケースを提案し、参加者全員で意見交換・討議し合い、若者が起こすCHEMISTRYを模索した。